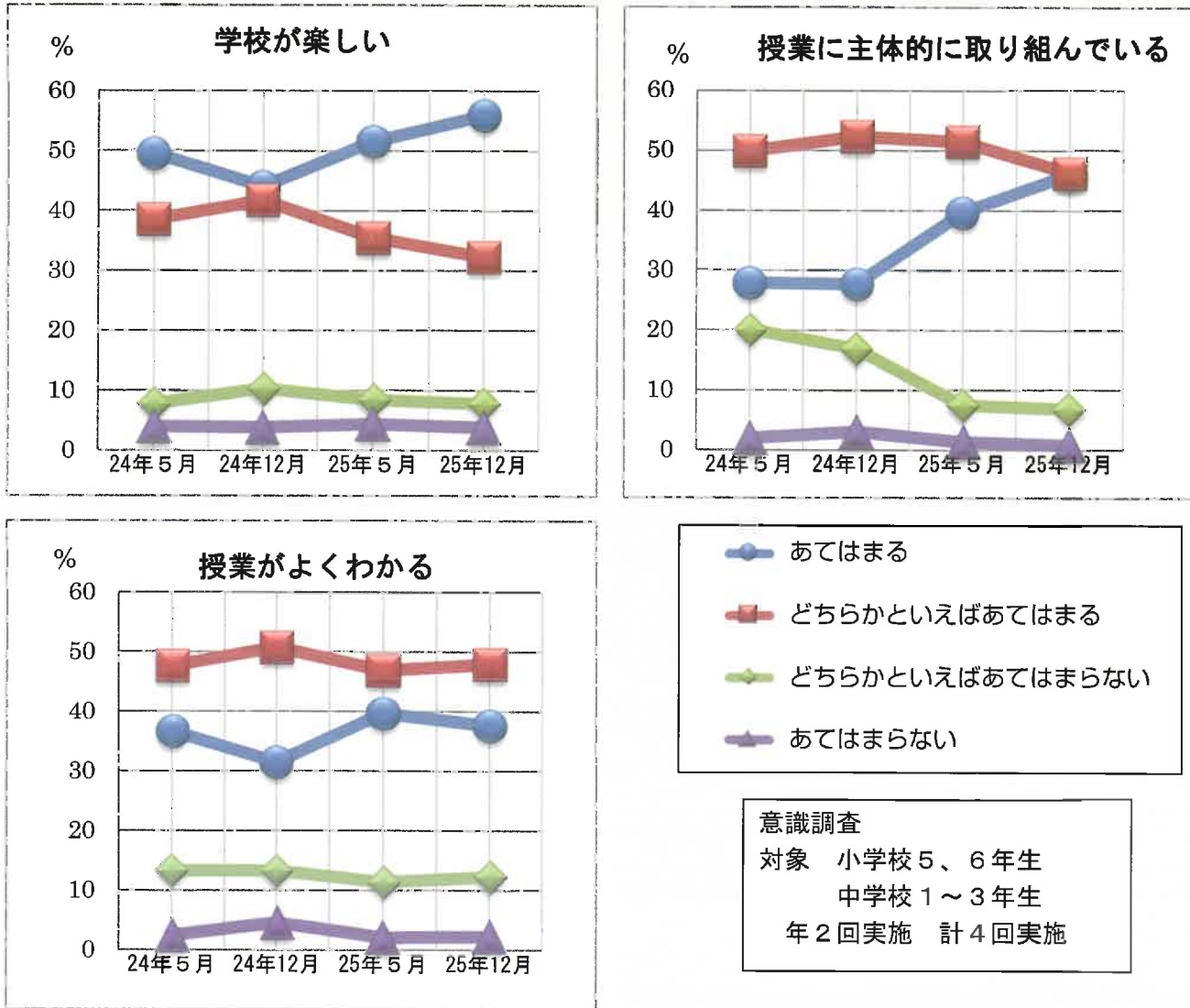


児童生徒の意識調査より (3校全体の集計結果)



取組の成果

- 各教科の授業や特別活動等において、児童生徒が主体的に学習したり、活動したりする姿が増えた。このことにより、これまで以上に学習内容の理解を深めたり、活動の充実感を感じたりする児童生徒が増え、その結果、自己有用感を高めることができた。
- 特別活動における話し合いの場で、互いの意見を出し合うことや異学年交流活動によって児童生徒の相互理解が深まり、温かな人間関係が醸成された。このことにより、各校で実施した「いじめに関するアンケート」においても、仲間に嫌な思いをさせたり、させられたりしたと答える児童生徒が減少した。

今後の方向

- 今回の指定事業の成果を生かし、今後も3校で連携し、児童生徒の主体性を育てる取組を継続していく。
- 仲間との相互理解を深め、互いのよさを認め合える温かな人間関係づくりのための取組を工夫し、児童生徒の自己有用感を高め、望ましい集団づくりを進めるための取組を継続していく。
- より効果的な小・小連携の在り方を究明するため、取組内容の工夫・改善を継続していく。

主体性を育てるための小中の連携

瑞穂市立穂積北中学校区 (穂積北中学校・本田小学校・生津小学校)

穂積北中学校区の3校は、長年特色ある教育活動を実践してきました。昨年度からは、その実践に加え「不登校の未然防止」をめざして「魅力ある学校づくり」に取り組んできました。これは「分かる授業を行い、温かな人間関係〈絆づくり〉・楽しい学校〈居場所づくり〉をつくることで、学校がどの子にとっても居心地のよい場所となり、さまざまな困難を乗り越える力を育むことができ、その結果として、不登校を未然に防止することができる」という考えによるものです。穂積北中学校では各教科指導・特別活動において、「自ら考え、判断し、主体的に行動できる生徒の育成」を、本田小学校では道徳教育・特別活動において、「共に生きる喜びをつくりだす子の育成」を、生津小学校では英語科学習・特別活動において、「よりよくコミュニケーションを図ろうとする子の育成」をめざして実践してきました。

また3校共通の研究主題を「主体性を育てるための小中の連携」として、①「ねらい」を明確にした指導、②「児童生徒が主体的に学習に向かう場」の設定、③児童生徒が主体的な姿になるための「手立て」の工夫に3校で取り組み、どの子もが満足感や成就感、自己肯定感、さらに自己有用感がもてるよう、取り組んできました。

その成果として、各教科の授業や特別活動において児童生徒が自信をもって取り組んだり、進んで学ぼうとしたりする姿が増えてきました。今後もこの取組を継続しつつ、全児童生徒が生き生きと学校生活を送ることができるような学校づくりを進めていきます。

児童生徒の実態

- 温和で素直であるが、自分の思いを優先したり、仲間とうまく関われなかったりする面が見られる。
- 仲間と共に活動しようとするよさがある反面、自分から考え行動することに弱さがある。
- 落ち着いて授業に取り組めるが、主体的に取り組むことに弱さがあり、学力差もある。

課題

主体的に授業に取り組む姿は増えたが学力差があり、授業や特別活動等で受け身がちなため、学校が楽しくないと感じている児童生徒がいる。

目標

各教科の授業や特別活動等で主体的に活動できる場を意図的に設定し、児童生徒が自ら考え活動し、よさを認め合える姿を目指す。

取組

各教科の授業や特別活動等で自ら活動する場を位置付け、その活動の中で、学習の基礎・基本の定着と主体的な姿を認め、満足感・成就感を味わわせる。

< 3校共通の研究主題 >

主体性を育てるための

3校共通 取組内容・各校の研究主題・研究内容

穂積北中学校
自ら考え、判断し、主体的に行動できる
生徒の育成

< 分かった喜び・できた喜びを
実感する各教科指導 >



仲間の考えと自分の考えを比較して、自分の考えを深める
グループ交流

< 豊かな人間関係を育む
特別活動 >



学年の枠を越えた縦割り交流会
< 学習方法・学級目標・
宿泊研修・合唱などの交流 >

共通取組内容
① 「ねらい」を明確にした指導
② 「児童生徒が主体的に学習に向かう場」の設定
③ 児童生徒が主体的な姿になるための「手立て」の工夫

本田小学校
共に生きる喜びを
つくりだす子の育成

～願いをもち、自分なりに工夫し、
主体的に取り組む子の育成～

< 自己の生き方を深める
道徳教育 >



< 自己有用感を育てる
特別活動 >



< コミュニケーションを楽しむ
英語科学習 >



生津小学校
よりよくコミュニケーションを
図ろうとする子の育成

～主体的に課題をつかみ、できた喜びを感じる子の育成～

小中の連携

円滑な接続のための3校の取組と連携

< 小・中連携 >

穂積北中学校
学校の教育目標
自立 自ら動く

- ◎生徒が主体的に創り上げた「入学説明会」
- ◎中学校土曜参観・行事へ小学校6年生とその保護者を招待
- ◎兼務教員を中心とした全職員による小中連携の推進



中学校の学習・部活・行事などを
小学生に説明している1年生



学年合唱を披露する2年生

中学1年生の意識調査
(独自項目)の結果から(%)

意識調査項目	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
入学した現在、中学校の生活に不安はない	43.1	20.8	17.4	18.8

約64%の中1生徒が「中学校の生活や学習に不安を感じることがない」と肯定的に答えており、小中学校の円滑な接続ができつつあります。
(H25.5月実施の意識調査より)

家庭との連携

円滑な接続

地域との連携

本田小学校
学校の教育目標
みつけ たすけ合い
やいぬく子

< 小・小連携 >

仲間意識を育む

生津小学校
学校の教育目標
なかまと まごころこめて
すすんで やいぬく子

- ◎学習姿勢の確立



- ◎宿題から自主学習への発展

- ◎共通朝学習
プリントの実施

- ◎共通曲を学年合唱する取組

